

子供をナンバーワン高校生に育てたヒミツ

昨年、全米 80 万人の女子高生が参加して、知性や情熱、リーダーシップを競った全米奨学金コンクール。そこで見事、日本人の母親を持つボークさんが優勝しました。この全米ナンバーワン女子高生を生み育てた母親のボーク重子さんが、この度、著書「世界最高の子育て」を上梓されました。

彼女が一番大切にしたのは、子供との対話でした。親から見れば、子供は何も分かっていない未熟な存在に映り、ついつい「あーしなさい、こーしなさい」と言ってしまうがちですが、彼女はこうした押し付けを絶対にしなかったそうです。

母親の重子さんご自身が日本では小学校の頃から塾に通わされ、常に良い成績を上げることが期待され、いつしか親を喜ばせるために勉強している自分に気づいたとのこと。結局、彼女も、親の言うがままに勉強してきた中で「いたい自分は何のために勉強しているのか、さっぱり分からない」まま大人になってしまったと言う無念さが背景にあったようです。なので、自分の子供には一切押し付けはせず「何がしたい?」「なぜ、したい」という対話をまだ幼児の頃から、ずーっと心がけて来たそうです。

この「なぜ、したい？」を子供に聞いてあげ、その答えを子供に言わせてあげることが一番のポイント。確かに、こうした対話を続けていると絶対に主体性と自発性が身につきますよね？理由も言わず「いいから、こうなさい！」では絶対に子供は思考停止しますもんね？

その結果、彼女のお嬢さんは、大好きなことに溢れる情熱を持って夢中なれ、人を引っ張っていける素晴らしい女子高生に育っていったのです。

大好きなことだと、どんな困難や辛いことでも情熱があるから乗り越えられますし、その熱意は周りからも応援され、他力をも動かします。仕事も勉強もスポーツも芸術も全てがそうですが、「仕方なくする」ことほど不幸で本人が伸びないことはありません。そのうえいくら頑張っている、仕方なく感ありありの人だと、周りも応援したくはなりませんもんね？やはり24時間寝ても覚めてもやりたいことを仕事にするのが、本人にとっても社会にとっても一番幸せなことなのかも知れません。

個人的にはワークライフバランスなんて聞くと、悲しいほど違和感があります。政策としては、全てが平均値以上の子供を増やす教育を一新し、誰もが、遊びと仕事の区別なく夢中になれることで生活できる楽しい社会を目指して欲

しいものです。親が思う、高学歴で有名企業や公務員コースの押し付けなんて、子供にとっては迷惑で能力をも殺してしまう本当に悲しいことです。

長くなりましたが、最後にボーク重子さんが、子育ての中で一番大切にしていたアインシュタインの言葉を記しますネ。

↓↓↓↓

「誰だって才能がある。だが魚が木を登る能力で自分を判断しようとしたら、その魚は一生自分はダメでバカな存在だと思って生きることになる」……アインシュタイン

↑↑↑↑

まさに、ココカラリセットライフが一番大切にしている世界観「あなたがあなたらしくあること」と通じる言葉ではないでしょうか？

～弊社 FACEBOOK「ココカラリセットライフ」より転載～